



後片付けをする。

見てまわる班は、班のプラカードと各お店でもらった牛乳のふたメダルを入れる袋を持っていく。

◆お店の種類◇◆

お宝発見の店・ゲームの家・ギネスチャレンジの館・まちがい探しの店・クイズレストラン・世界一周旅行・リサイクル体験ルーム・巨大すごろく・・・

◆集会づくりの仕掛け◇◆

長年続いていた全校集会がマンネリ化していた。子どもたちの中に、集会を変えたいという思いがあったのを受けて、運営委員会および委員長会のメンバーに新しい集会例として紹介した。始めから縦割り班での実施はむずかしいだろうと考え、学級ごとの出店という形でスタートした。同時に、縦割り班活動を充実させていきながら、3年目にこの縦割り班での集会に変更した。

-----  
2 第11回希望の会in山口、山口学級活動ネットワーク冬の学習会の感想  
-----

去る1月11日、山口県セミナーパークで行った「第11回希望の会in山口&山口学級活動ネットワーク冬の学習会」に参加してもらった方々の感想（第2弾）を紹介します。

○語っても語りつくせませんが、太田先生、前田先生、岸本先生の実践に触れ、感動させられたり感銘を受けたり実り多い時間でした。同時に自分の実践の拙さを恥ずかしく感じたのも事実です。負けずにがんばらねばとムチを入れたくなりました。

大庭校長先生の話もよかったです。そこには学校の空気を感じました。本気、元氣、思いやり等々の特活の求める姿を垣間見ることができ羨ましく思いました。

さて、杉田先生の話は、いつものように穏やかですがポイントをついた厳しい提言もありました。わたしがドキリとさせられたのは

「特活の弱かった部分として『個』に焦点を当て切れていなかった。」

「特別活動的とか、特活の人みたいに言われることがイヤだった。」

という点です。

それは私の課題に迫る部分であり、的を射た表現でした。（余談ですが、杉田先生は、時々ドキッとさせる表現をされます。「特別活動という名称を捨てよう」と数年前に鳥取で言われたことを思い出します。特別活動の大切さ、日本の誇る全人教育の優秀さを言われたものです。そのような表現に触れるたび杉田先生の「本気」を感じているのは私だけではないと思います。）

私も

「特別活動？ みんなで楽しくワークとやってるね。」

「なんだかよく話し合わせてるね。」みたいに言われ苦い思いをしたことがあります。集団で何か行事をして盛り上がるのが成功で、終わったあとにどんな力がついたのかが軽んじられていた面、つまり楽しそうだけれど何をしているのかわからなかったり、時間のムダのように感じられたりしていたためだと思います。例えば実践報告などで語られたすばらしい取り組みを、いざ自分の学級でするとき、即そのまま持ち込んでもいいものでしょうか。教師の力量や得手不得手、児童の経験や段階といった実態、学級・学年・学校、職員、保護者などの環境をも考慮しないと、打ち上げ花火にもならない可能性があります。そのためには 実践が適切かそうでなければどう取り組むか、アレンジするか、そして、終わったあとの学級の様子だけでなく、子どもの姿をイメージしていないといけなと考えます。それを明らかに示すことができれば他の教科同様に認知度もあがり、特活も教育活動として重視されると思います。

杉田先生は言われました。

「特別活動もペーパーテストをすればよい。」と。

このことから、杉田先生の本気さが伺われました。

さて、午後の部では新学習指導要領の中から12の課題について提案され、それについてグループで討議をしました。この12の課題も、実に的を得た重要なものでした。もちろん正しい解答というものはありません。

できれば それもHPなどで公開していただければ参考になると思います。討議内容の要旨でもいっしょにあると、なおよいのではないかと考えますが、山口の梶田先生、いかがでしょう。

○朝一番から参加できなかったのが、残念だったのですが、講座、講演一つひとつ中味が濃く、充実した一日でした。今1年間の長期体験研修に出ており、現場を離れていますので、まさにスイッチon！した感じです。

まず、自分自身がすべきことを考えて、地道に実行していこうと思います。

(もう一度学習指導要領を読み起こすことから・・・が私の一番の課題です。)

4月から現場に復帰した時に、元気にスタートを切れるように、今回の山口の皆さんとの学びをいかしたいと思います。

PS 名物ゴリラダンス?!を動画撮影できたのも、大収穫でしたー(^^)

○午前中の太田敦弘先生、前田育代先生、岸本勝義先生のすぐ使える3名の先生方の実践発表、大庭正美校長先生の講義で

「なんで、こんなに朝からすーっとした涙が自然と出てくるのだろう？」

というくらい、何度も泣かされてしまう場面がありました。

(もう、化粧が落ちてしまうかもしれないって内心ハラハラ)

感動させられることばかりで、「プレゼンの極意」を感じさせられた次第です。

大庭校長先生も、太田先生もおっしゃいました。

「ただの学校行事(授業)ではいけない。いかに工夫して演出を教師ができるかどうか勝負」

なるほど、そうだ、納得！という気持ちでした。

大庭校長先生は、自らゴリラダンスの伝授とともに体を張ってよいお手本を（当日の宴会でも）披露されておられました。感激しました。いろんな管理職のお仕事もこなしながらも、子どもや先生方にかかわっておられるお姿に感動いたします。また、運動会の縦割り班対抗つなひきでは、面白い殿様姿でマイクを持って、演技の解説者となって、その競技を盛り上げられていました。子どもが応援場所から出てくるときの自分たちの音楽（ファンファーレ）がまた、素晴らしい。班のリーダーに曲を決めさせての演出。子どもの意気を最大限に高めさせ、応援の保護者や来賓の方々も「絶句」だったはずです。

太田先生の発表からも、あの絵本の読み聞かせで「音楽」と「文字の出し方」を勉強させてもらい、「今度1／2成人式で真似できるようにがんばろう」と思いました。イタリア風のレストランに来ているかのように、プレゼンのやり方について、概念をくつがえされました。メニュー表もびっくりしました。

前田先生の発表からは、係活動の様々な工夫や学級文化の創造の大切さを学ばせていただきました。新聞係などで「1年間の学級の出来事をカレンダー方式でまとめさせ掲示する」いいな～と思いました。さっそく、今週やってみようともちかけたら、子どもたちも喜んで意気盛んになってきました。（ちなみに今週のうちのクラスのめあては「係活動をがんばろう」です）身振り手振りの笑顔で語られ、とっても楽しくお話をされる姿に、うんうんと共感させられ、その世界に引き込まれてしまいました。

「前に立つときは、やっぱり笑顔が一番大事だな～」と当然のことながら先生から「パフォーマンス」の重要性をうけとめさせられた次第です。

岸本先生もやはり楽しいお話しぶりで、つい笑ってしまうような明るいお人柄に、どんどん引き込まれていきました。「子ども一人一人の持ち味を生かしたい」「人間的なつながりを大事にしたい」という先生の熱意がとても伝わるご実践に共感させられました。

ここでも、係活動のネーミングも「文部科学省」など社会科と関連させた工夫やシンボル作りのこだわり、その活用も工夫されていました。

「もっと、学級旗を活用させなければ・・・」と反省させられました。

午前中は、「音楽のもつ力」「パフォーマンス」「文字のもつ力」「教師の企画・演出の力」など、すべての先生方に共通しておられた気がしましたが、私だけ？でしょうか？

さて午後からは、ワークショップ型で行うグループ協議。「ミスターXからの手紙」という、なんかここでもドキドキワクワクしてくる演出があり、「やられたー」と思いました。12の手紙が用意され、その手紙の中に協議内容とするテーマが書かれていたのです。つまり、12のテーマがありました。

まさに、実践上の課題とされる「キーワード」だったのですが、なんと有意義な時間だったことか。各班で話し合っ発表をしたり、聞いたりして大変勉強になりました！

ちなみに、自分たちのテーマは「社会的スキルをどう生かすか」でした。付箋に自分の考えを書いて、それを元に話し合っ深めていきましたが、すらすらと書

記をしてくださる先生，ご自分の体験からその極意を語られる先生，佐賀大会で発表された先生とも偶然ご一緒だったことも大変うれしかったです。

このように，「参加者同士のつながり」も大切にされる「希望の会」に感謝感激です。

最後に杉田 洋調査官のご講演がありました。

いつもと変わらないやさしい笑顔で語られるのですが，厳しい内容も語られますし，「3つこれを実践してみようと考えてください」というような宿題を最初に出されるので，いつも考えながら聞かざるを得ないのです。しかし，それが有り難いです。

また，様々な学校の実践を写真で紹介してくださるので，うれしいです。

本校の運動会の「聖火リレー」の写真も紹介していただき，うれしかったです。さらに，学級目標をどう活性化させて，その到達度を意識させるか自分の悩みでしたが，参考になる物を見付けることもできました。

もちろん，改訂で伝えたかったポイントの図や言葉が分かりやすくまとめてありましたが，これをじっくりと読みたいな～と普段から思っていました。

その願いがついに，ホームページ上でダウンロードして印刷ができるということで，さっそく山口の梶田先生から紹介があり，そのリニューアルした画面に出してきました。有り難かったです。

当日の夜も楽しいひとときを過ごさせていただき，また，新しい出会いもたくさんありました。大庭校長先生の「生のゴリラダンス」，太田先生の「箱のくす玉」の演出（え，なんでどンドン，紙テープが上から出てくるの？不思議～）などもあって，有意義な時間でした。

自宅で興味津々，ホームページをずっと見てみました。

すると，杉田先生のプレゼン内容がありましたので，今度学校内で全体計画案を説明する際に，改訂の主旨や背景となる部分で配布させていただこうと思いました。

また，前回までの大会案内・報告などもあって大変有り難かったです。苦労が全部報われた気持ちになりました。感謝申し上げます。（なんと本校の航空写真までつけていただき，びっくり。気遣いのあるやさしさに感激でした。ありがとうございます）

いずれにせよ，参加するたびに思うのですが，この「希望の会」にかかわる先生方のやさしさや前向きさを勉強させられます。

山口の事務局の先生方，本当にお世話になりました。みなさん，ありがとうございます。

---

### 3 メルマガ編集部からのお知らせ

---

#### ◆次号の予告◆◇◆

第71号は2月上旬ごろ発行予定です。

次号も、第1特集は「全校集会づくり」について、第2特集では「冬の学習会」についてお知らせします。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は242名です。これまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆内容の充実について◆◇◆

このメールマガジンでは、読者のみなさんのニーズに応える紙面作りに取り組んでいこうと思っています。こんな内容について書いて欲しい。こういう情報が欲しい、ということをお知らせください。

sugi-net@c-able.ne.jp

本年度中に特別活動の年間計画をつくる必要があります。そのあたりについても可能な限り書いていこうと思います。

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。学級づくりの実践を広げ、共有していきましょう。

本メールマガジンでは、次のような新しいテーマで情報交換を行ってみようと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

- \*こんな時、どうする？コーナー
- \*学級づくりで、はっ！とさせられたこと
- \*子どもってすごいなあ！と思ったこと

みなさんも、ぜひ以下のアドレスまでよろしくお願いします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====  
山口学級活動ネットワーク メールマガジン  
☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで  
☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部  
                  梶田崇晴（山口市立平川小）                  津村元文（美祢市立伊佐小）  
                  吉田哲朗（山口大学教育学部附属山口小）  
=====